

「新しい県立図書館」アイデア提案書

提出年月日：令和3年1月15日

今回の施設への提案としては、中央図書館を県内や国内あわよくば世界へとつなぐことのできるような情報ネットワークシステムの構築を図るとともに更に図書館機能を拡大し、県内ゆかりの文学者のための文学館機能や中央図書館が歴史的資料として収蔵している葵文庫の展示・保存活用施設、古代東海道の遺構を活用するための展示施設とその収蔵庫等も施設の中に入れることができればと考える。

考え方：

- ①文学館機能の付設することにより静岡県ゆかりの文学を県内・国内・世界に発信するとともに県民の文学に対する認識を高め、県内ゆかりの作家の顕彰を図るため。  
県内には、賀茂 真淵、小泉 八雲、若山 牧水、坪内 逍遙、芹沢 光治良、太宰 治、中 勘助、木下 杢太郎、ノーベル賞作家 川端 康成、井上 靖、佐々木 信綱、小川 国夫、大岡 信、杉本 苑子、村松 友視などゆかりの文学や詩歌等様々な作家も数多く存在している。
- ②中央図書館所蔵の葵文庫から歴史的資料の発掘と利活用を図るため。  
今まで、数々の歴史的資料が発見されていますが、いまだに膨大な量の貴重な資料がまだ眠ったままの状態である状況があるので、今後も引き続き資料として解読等して開示・公開できるようにいく必要がある。
- ③近年は、土の中に埋もれた文化財的な重要なものをレプリカとなるかもしれないが建築物の一部として見える化し、より一層の保存管理活用を図っているところが増えている。文部科学省内でも、その活用が図られている。この場所は、特に古代東海道を生かすことができる施設が建築できる場所であると考えられる。そのため、中々日の目を見ない県内の埋蔵文化財出土物の展示できる施設と今後東海道の埋蔵文化財出土物の利活用を図っていくための収蔵施設も設置してほしい。  
今後の埋蔵物の保存活用を考えるならば、できれば、埋蔵文化財として保存した古代東海道を学校等の子ども達や興味のあるボランティアの方々へ協力していただきながら発掘体験をし、元の遺構に戻すことができたらと考える。時間と手間はかかるかもしれないが、実体験をしながら学習することに意義があると考え。発掘した場所は、実際の遺構として誰もが見たり、通ったりできる所として見える化された文化財として保存していただきたい。  
(視覚・聴覚障害者も通ることができ、分かるような所として設置)
- ④その他としてこの図書館を設計する場合は、メンテナンスが楽で雨漏りをしないような構造が最適であると思います。グランシップや富士山麓山の村のような奇抜な構造にすると色々な面で事後の経費が掛かり最終的には財政から匙を投げられてしまい補修経費等の財政援助が途切れてしまうことが考えられます。外部は見栄えは関係なくできるだけ、シンプルで安価になるような設計が必要であると考えます。外部構造は地震に強く、外見はシンプルな方がよいと思います。漏水等のメンテナンスを考え、天井等の給水管や電気配管はむき出しでも構わないと思います。その代わり壁等内装材には、富士ヒノキや天竜スギなどの地元産の木材をふんだんに使い、地域興につなげられればいかと思います。県有施設を建築する場合は、県内産木材の大量消費により、環境にやさしい循環型の経済流通が築かれていくことが必要と考えます。

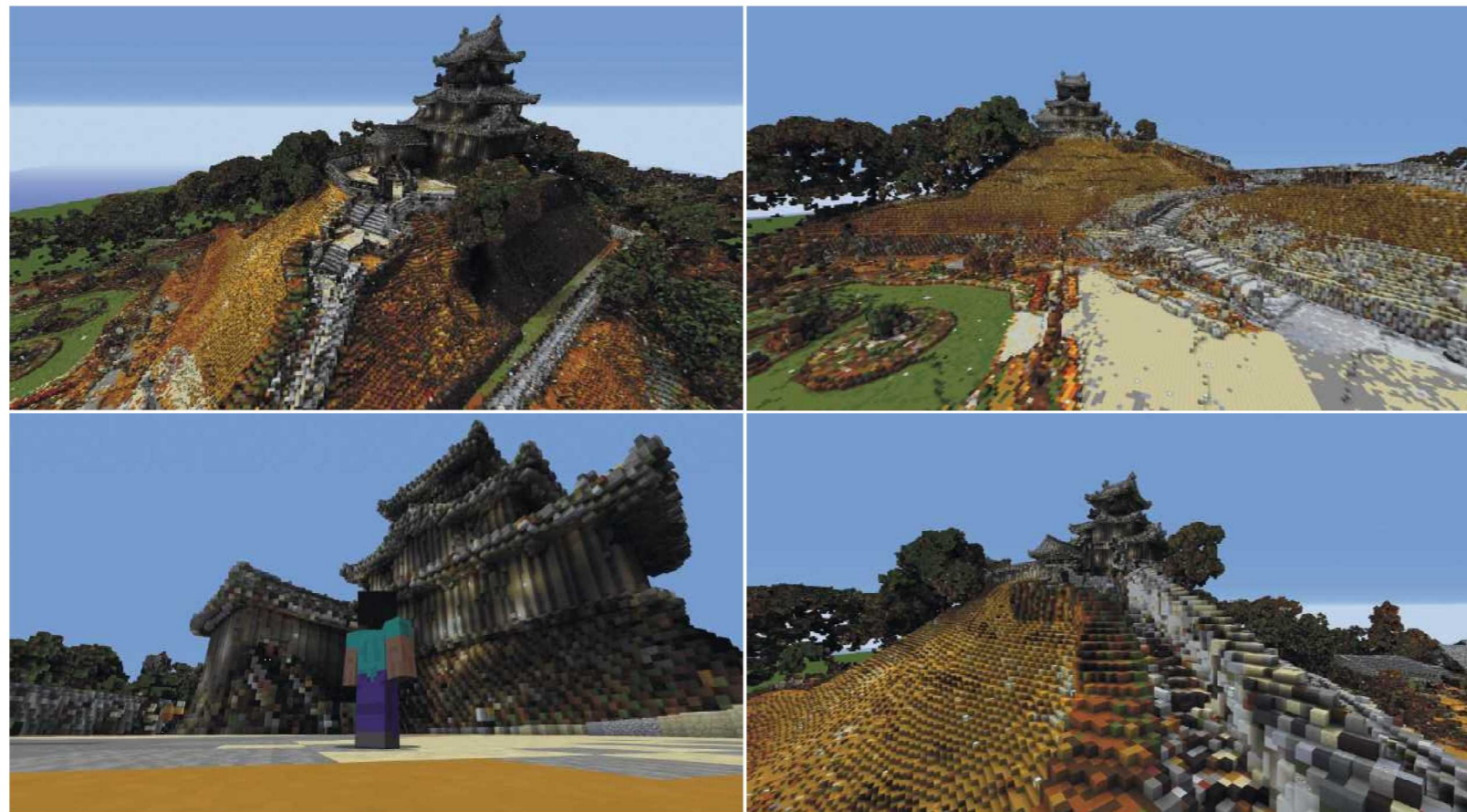
11F	食文化センター (静岡県特産物使用レストラン等)	
10F	文学館 (県内ゆかりの作家)	
9F	同上 (企画・学芸展示)	
8F	文化情報(カルチャー)インフォメーション	
7F	同上	
6F	開架図書閲覧コーナー	
5F	同上	
4F	インフォメーション(事務室&管理諸室)	東静岡駅からのアクセス
3F	葵文庫 & 開架図書の収蔵	
2F	同上	
1F	同上	
		Gr.L
	※B1Fは一部収蔵庫	
	B1F~B2F	
	古代の道の発掘の跡と利用は展示コーナー(埋蔵センター&文化財課)	

～マイクラで静岡県を遊ぼう～

# マイクラフト・シズオカ

静岡県が保有する県内の地形・名勝・文化資源等の点群データ（静岡ポイントクラウドデータベース | <https://pointcloud.pref.shizuoka.jp/> 等）を元に、県内の各所をオンラインゲーム「マイクラフト」（以下、「マイクラ」と表記）の地形として再構築し、図書館の保有するサーバーでそれを公開して無償で利用可能とする。学習・研究を主目的とするが、内容によってはビジネス利用も可とする。これを用いて、例えば県内の特定の土地をテーマにしたワークショップをオンラインで開催することも可能となる。実際の場所を想定しながら三密を回避し、ニューノーマルの時代における新しい学びの場を提供する。

※注：点群データをマイクラフトの地形に変換する技術については、アイデア提案者にて用意可能です。



参考図版 | 点群データを元にマイクラフトに変換した「掛川城」

## 《利用方法の例》

- ・オンラインで郷土の探検学習
- ・文化遺産をマイクラ上で「破壊する」ことで構造を学ぶ
- ・マイクラフト上でバーチャル観光案内
- ・マイクラ上で未来の都市整備計画をシミュレーション
- ・地形だけでなく、犯罪発生率の高いところにモンスターを発生させるなどして防犯のことを学ぶ
- ・地震や津波のシミュレーションをマイクラ上で見てみる

など

## 《参考》

実際の地理をマイクラ内で構築して学習や研究に役立てた例は、デンマークの事例などが知られている。一時、せっかく構築した地形がマイクラ内でユーザーたちに破壊されたなどとしてネガティブな報道がされたが、実際の土地や施設に影響を与えずに「試しに破壊する」ことができるのはマイクラフトの長所であり、そのことを活かした活用方法を企画することも可能である。

～県民同士の“学び”の交流 Web サイト～

# ふじのくにまなびあいサロン

「本」や「情報」を元として、県民同士の「学びあい」を支援・活性化するためのサロン機能を持った Web サイト。県民ならば誰でもアカウントを作成して利用できる。学校教育と社会教育を横断し、学びたい人同士が会ってお互いにお互いの学びを促進させる場となる。現状では以下3つの機能を想定する。

## 《ブック交換交流機能》

市民同士が自分の所有する本を交換し合う市民イベント「ブック交換」をネット上で行える機能。

### 【利用の流れ】

- 1) 自分の本を出展したい人はタイトルと書影と紹介文を添えてサイト上の自分の領域に展示する。
- 2) それを見て「交換したい」と思った別のユーザーは自分の本についても同様にタイトル、書影、紹介文をサイトにアップして交換を提案する。
- 3) 提案された側が承諾すればマッチが成立する。
- 4) 図書館が提携している宅配業者に依頼し、遠隔で本を交換する。

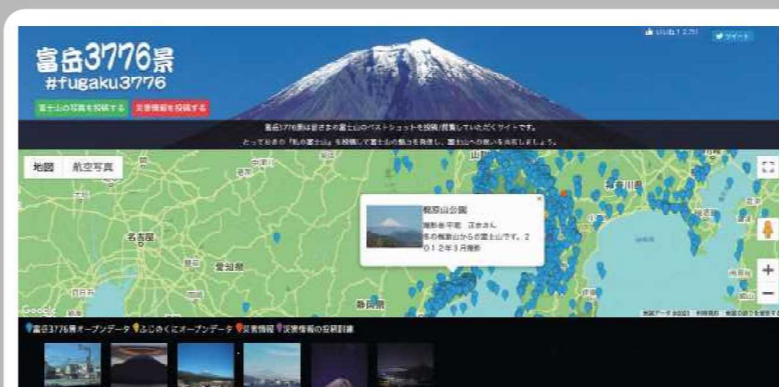
ユーザーは、宅配業者の利用料のみ負担する必要がある。上記の基本的な流れに加えて、レビュー機能、読書の感想共有機能、交換の得点機能など、本の交換と読書をテーマとしてリモートで市民交流するための機能群を有する。

## 《地域の歴史文化情報蓄積・探索機能》

地域の歴史文化に関する資料、観光資源に関する資料、古い写真やフィルム等の記録資料などを市民自身が投稿し、蓄積していくデータベース。情報蓄積のため、さらに以下二つの機能を有する。

### 【情報収集機能】

- ・集まった地域の情報を分類、整理、公開する「デジタル司書」を雇用する。
- ・特定のテーマに沿って情報を収集、公開するキュレーションサイト機能  
(以下、参考サイト「富岳 3776 景色」など)



参考図版 | 富士山の見える場所の情報を共有するサイト「富岳 3776 景」

## 《自由研究アーカイブ》

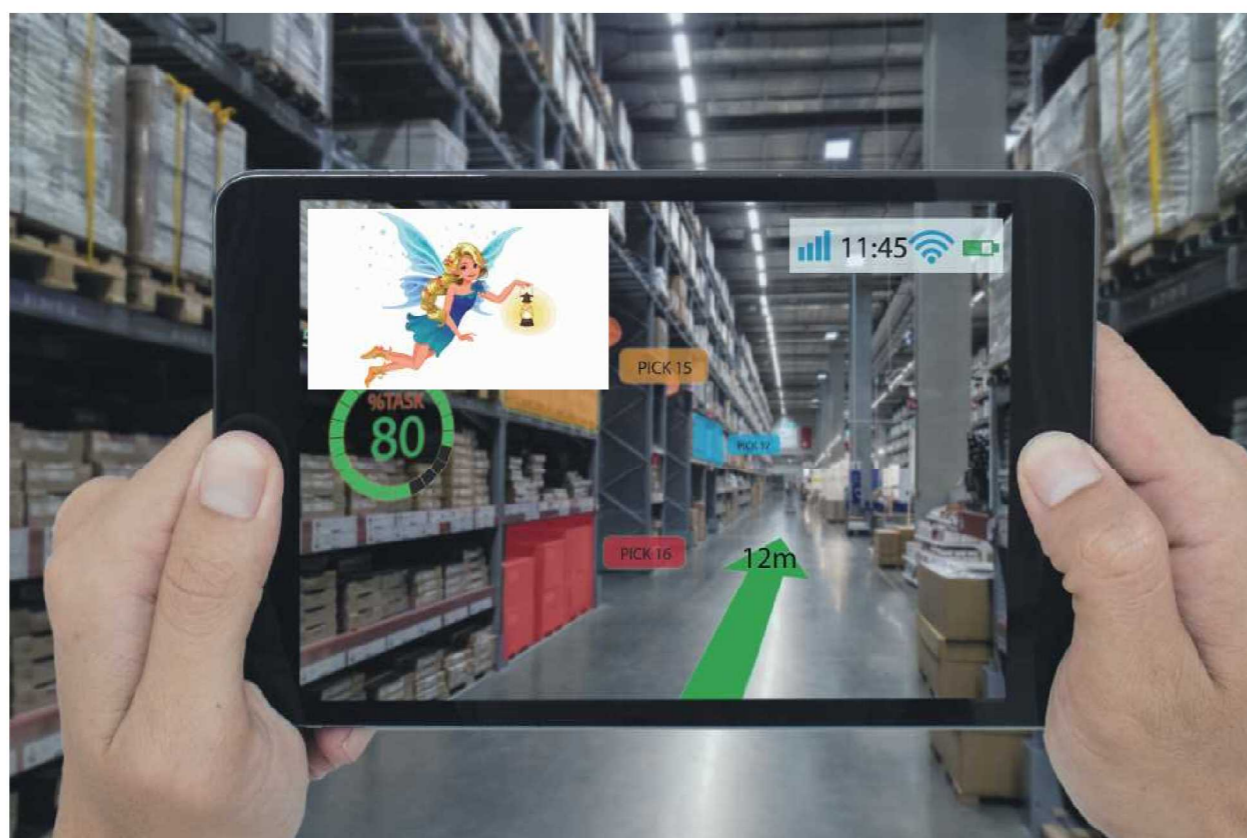
市民達の「自由研究」を集めて蓄積していくデータベース。小学校等の学校教育の中で課題として行われている自由研究と、社会人も含めて自発的に行われているいわゆる街場の研究とを併せて収集する。

自分の研究を発表する「オンライン発表会」を定期的開催し、市民たちの自発的な「研究」の成果が蓄積されていく。学校教育の中で課題としての自由研究の材料を探したり、生涯学習の中で行う「研究」の成果を発表する場となることなどを意図する。

～みんなのための図書館エージェント～

# AI・AR ナビゲータ 「図書館の妖精」

図書館の来館者向けサービスとして、スマホを用いて図書館の様々なガイドをしてくれるナビゲータ／エージェントアプリ。  
来館者自身のスマホやタブレットにインストールして使用することができ、図書館のデータベースに接続して検索や紹介を行うことができる。



参考図版 | AI・AR ナビゲータ「図書館の妖精」イメージ図

## 《概要説明》

AR上でAIがずっと近くに来てくれて、話しかけるとレファレンスに答えてくれて、調べ物を手伝ってくれる。

AIは妖精の姿をしていて、図書館に来て話しかけるだけでワクワクするように。子どもや若者の来館率向上にもつなげる。

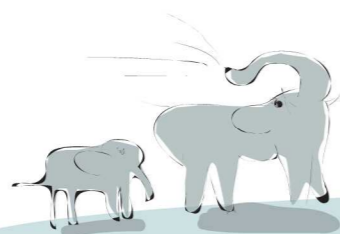
図書館を訪れるテクノロジーが好きなユーザをメインターゲットと考える。

# オアシス

知で満たされたオアシスは、みんな大好きです。

オアシスのまわりとか、深い底の方とか、それぞれがお気に入りの場所で過ごしています。

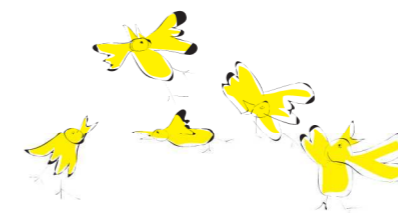
今日もやってきました。



この景色が好きなんです。



今日もみんなと会えました。



探検中です。



じっくり考えています。



# こども図書館 おぎないあう人・施設

光が満ち溢れ、風が通り抜ける半屋外のような空間  
何やらにぎやか・・・



大人にとってはオンライン化していく中での図書との付き合い

- ・ 検索、予約の行為はオンライン上で可能になった
- ・ 電子書籍の貸し出しを行っている図書館がある

子どもにとっては、どんなにオンライン環境が進化しようと最初は誰かに本を読んでもらうしかない。本との出会いが即ち物語との出会い。「どんなお話があるのかな・・・わくわく、ドキドキ」「この本を開くとどんなことが起こるのだろう」

- ・ 子どもにとっては実物に触れあえる場を作ってあげることが大事である。
- ・ 家ではできない、図書館だからできること。それは交流。子どもたちが本を通していろいろな人と交流できる場所をつくりたい。

## 空間のこと～県立図書館としての機能を持つ建物 + こども図書館

こども図書館の機能としては以下の3つが考えられます。

- ①開架コーナー+閲覧スペース 広々とした空間、書架は表紙を見て選ぶことができるように  
(表紙を見られるように展示すると開架に並べられる冊数が限られるためテーマにのった開架コーナー、開架コーナーに無い本は職員に問い合わせ)
- ②あつまることのできるスペース  
読み聞かせやおはなし劇、講演、展示等様々な用途で使用できる
- ③屋外スペース  
外で本を読むことができる。温暖な気候の静岡ならではの。



## 世代別の企画例～紹介し合うことで生まれる「こんなおはなしがあったんだ！」という発見

○**幼児**には大人から読み聞かせやおはなし劇を通してこんな本があるよという紹介。また開架コーナーにはテーマに沿った図書が陳列できるようにする。



○**小、中学生**には大人からの紹介もちろんであるが、子ども同士でも本を紹介し合えると面白い  
子どもがより小さい子に本を読んであげる、小学生の図書館司書が子どもの本探しの相談に乗る、子ども司書養成(全国各地に事例あり)読者のこえ、おすすめ本紹介、まちの紹介

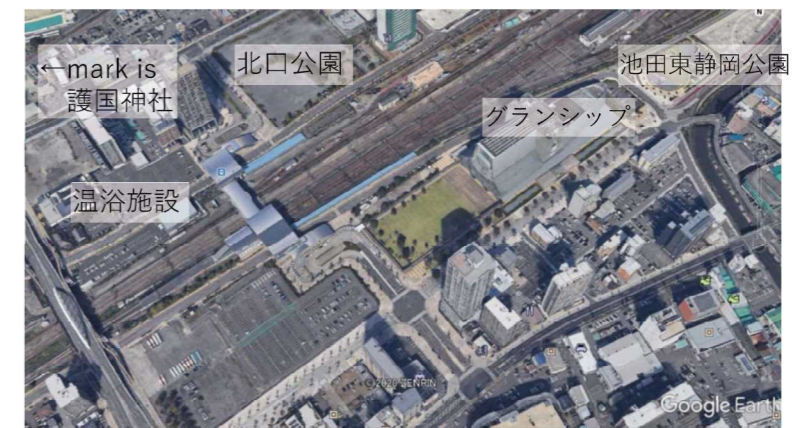


○**全世代**に向けて  
～図書館からみんなへ  
作者の紹介、作者本人のお話会  
絵本作品についての企画展示  
ビブリオバトル

## 立地のこと・感染症のこと

- ・ 東静岡駅には南口に東静岡池田公園、北口にも幾つかの公園があり、主に週末は親子でにぎわっている。MARK IS や温浴施設の集客施設もある。また、護国神社では様々なマーケットが開かれている。子どもに本の魅力に触れてもらう場所としては最適。
- ・ 隣接予定のグランシップ-S P A Cにて子供向けの企画が多数催されている。例えばSPACにおいては俳優が定期的にお話劇場を開いていたり、中高生鑑賞事業により県内の中高生が演劇を観に来てくれる。図書館との連携での子供向けイベントは色々と考えられる。
- ・ 静岡市には多数のボランティアよみきかせ団体がある。図書館との連携によりこどもと本との出会いの機会をより増やす。県立図書館に彼らの交流拠点を作る。

今回のコロナでは普段は何事もなくできていたことが大切だということが分かった。本を読んだり公園で遊ぶこと、劇を観ること…今は感染対策をしっかり行った上で徐々にコロナ前の状況に戻ってきてはいるが、将来的に新たな感染症が発生することがあるだろう。そのようなときでも皆に、特に子どもたちにおはなしや音楽を提供し続けることのできる施設としたい。  
また、周辺の公共施設を始め民間の施設とも連携して、既に保有している機能を補い合い、魅力的な地域を作りたい。



# コトバの止まり木構想

## はじめに

2021年、情報の流れはめまぐるしく、言葉はネットを飛び交います。一方でコロナの影響により実体の私たちは停滞しています。逆行しているこの2つのギャップをどのように埋めるのか。それに図書館はどのようにしてアプローチがかけられるのかを提案します。

## 課題

### 1. ネット世界の弱点

インターネットが情報のアクセスに飛躍的な進歩をもたらしているのはもはや言うまでもありません。Google検索すればものの数秒で答えが返ってくる便利な世界を私たちはいまや当たり前のように享受しています。そこには弱点も存在します。まず、得られる情報のとっかかりは検索エンジンが提示した断片的なWebページである場合が多いです。自分の求める答えが出たとしても、その周辺に付随する知識や文脈といった包括的な情報にまでアクセスできるかまでは保証されておらず、きちんとした体系的な知識の習得につながるとは限りません。また、Webページに書かれた情報の信頼性も担保はされておらず、とますれば誤った知識を気軽に参照できてしまう危険性も孕んでいます。

さらに、インターネットの情報量の多さといった点も無視できません。その気になれば世界中の情報をみることができるのがインターネットですが、はたしてそこにあるのはメルिटだけでしょうか。例えば正反対の情報や意見を見つけて自分だけでは判断がつかず戸惑うこともあるでしょう。また検索結果の全てに目を通すだけの根拠をいつでも持ち合わせているとは考えにくく、検索結果上位の一握りのページしか閲覧されず、埋もれたページは埋もれたまままで機会格差が生じる・・・といったことも考えられます。

まとめれば、情報に届く速さをブーストされている代わりに広さ・深さに関してはいくつか現在のネット世界の課題であるといえます。この穴をどのようにして埋めるか、というのが次なる図書館のあり方に関わってくるような気がします。

### 2. コロナ禍におけるコミュニケーションのむずかしさ

感染予防の観点から、不要不急の外出は自粛を求められ、ソーシャルディスタンスをとる中で心の距離も遠ざかりました。対面でのコミュニケーションは難しさを帯び、そうした中ではより一層コミュニケーションが切望されることでしょう。

よって、対面式の従来のコミュニケーション方法に変わる新たな交流のありかたを提示する必要があるといえます。

### 3. 「出会いの場」としての図書館の存在価値の確立

図書館は、市民にとって質の高いさまざまな書物に触れ、新しい世界を知ることができる貴重な場であるといえます。しかし、余すことなくそれを楽しんでいるとは限りません。往々にしてネットで調べた目当ての本を1冊とって、それだけ・・・というのが実情ではないでしょうか。せっかく多岐にわたる領域の本が無料で読める環境を活かしてきれていないというのはいけません。ただ、無作為に選ばれた興味のない本を読まされるというのも苦痛です。

そこで、自分でも気づかなかった興味のアンテナを立てる、すなわち本との「きっかけ」づくりの場を提供することが図書館に求められているのではないかと考えます。

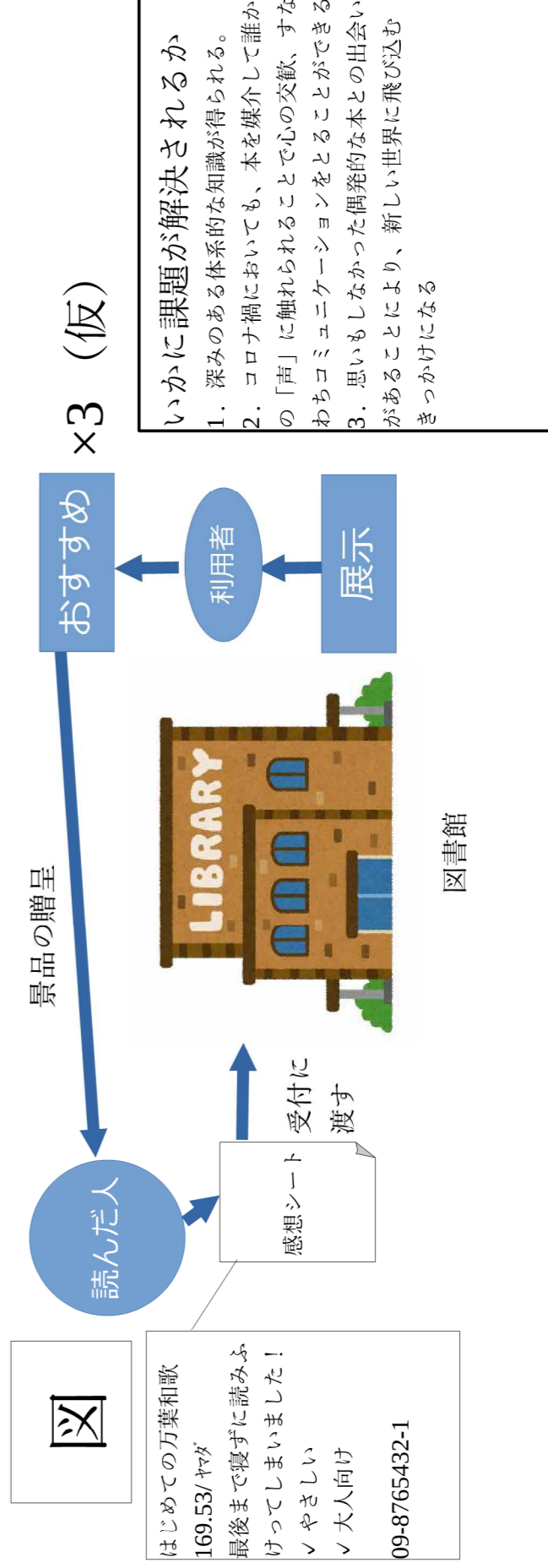
## 詳細・仕組み

本にまつわる利用者のコトバを図書館に集め、施設内や専用Webサイト内にてディスプレイすることで本の感想や推薦文を他の利用者に届けられるようにする構想。誰かの記したぬくもりのある感想・コトバを新しい本に出会うチャネルとして活かしていくという試み。仕組みについては以下。

1. 書誌情報（図書名、分類番号など）  
自由記述やキーワード（面白い、ためになる、こわい、といった本の特徴、どんな人にお勧めしたいか等を項目化したリスト）による感想欄  
利用者番号記入欄  
以上を設けた記入用紙を用意する（Webサイト上の送信フォームも併設。内容も同様）。

2. 利用者は本の返却時に用紙を受付に渡す（またはWeb上で記入）。受け取った用紙は本棚や机など他の利用者の目に留まる様々な場所に貼りつけ展示される。なお展示位置はランダムとする。

3. 利用者は印象に残った記入用紙を、施設内に設置された「おすすめ感想シート」コーナーに貼りつけることができる（Webではいいね機能を実装する）。図書館はこのシートの利用者番号を記録し、一定数おすすめコーナーに載った利用者は図書カードなどの景品を受け取ることができる（Webについても同様）。



## タイトル：どんな時も頼りになる図書館

非常時（災害時）にも 県民や地域住民の集える場所になる図書館を作ってほしい

### B1 地下に駐車場

30分無料 主に身障者を想定 駅が近いので健常者は公共交通機関で！

エレベーターは 身障者用（ゆっくり運転のみ 急ぎの人 健康な人は階段利用！）

ドライブスルーで使える 返却ボックス

F1 コンビニ （災害時の食料ストック倉庫も想定）

ブックカフェ 書店&カフェ オープンテラスも充実させる（コロナ対応）

児童書 コーナー 災害時に母子が利用しやすいように 靴を脱ぐコーナーにも

キッズコーナー&ミニシアター 有料貸し出しもありで小さなコンサートも可能

子供が読み聞かせに反応してはしゃいでも他の利用者にメイクにならないように防音

子供コーナーとしては 高山市の図書館が夢があって素晴らしいので参考にしてください

F2 一般書 書架

一番離れたところに4.5畳くらいの 横造紙を広げてグループ学習できるスペース 座卓

（松本の図書館にあり よかった）

非常時に避難場所としても活用できるように 仕切りのある閲覧席も充実させたい

F3 書庫

F4 学習コーナー 会議室（有料貸し出しあり）

こちらも避難場所としての想定する

今回のコロナ下でも使用できるように空調など考えてほしい

屋上の片隅に 喫煙室

本当は作りたくないが 敷地内禁煙にすると 敷地との境ギリギリで喫煙者がたむろするという事になる  
（現在 なっている例が多数）

太陽電池 蓄電池利用により 災害時にも最低点の電気が使えるようにしてほしい



# 次世代につながる図書館

## コンセプト

本に親しむ機会是不変だ。現在も未来も言えることであり、ここに提案するのは、知の源泉である読書を支える重要な知的インフラとしての図書館である。

技術革新が急速に進む現在社会において、常に新しい知識が必要とされる。しかし、社会人の持つ知識が急速に古くなろうと「温故知新」、新しい知識社会もその前の時代の情報から出発して集積される。だからこそ今必要な知識、幅広い分野の知識を求める場が必要である。それが図書館だ。人は絶えず情報収集をするとともに学習し続けなければならないのだ。知的好奇心よ永遠たれ！

時代は変化しようとして「人間は考える葦」であり、自由に、平等にそして優雅に学べる場が提供される必要がある。

Society5.0 で実現する社会が「新たな価値が生まれる社会」「課題を克服する社会」「面倒な作業から解放される社会」「人の可能性がひろがる社会」であっても、ゆとりのある建築空間は時を忘れさせる。空間の革新性は時に古典的であるのかもしれない。大時代的であろうとも時代のテンポとは裏腹に、のんびり快適に過ごせる空間は喜ばれる。そしてその空間が次世代へとつながるのだ。

## 計画案

「知」の偉大さを広大な空間で表現  
モニュメント性を強調  
学ぶ喜びを感じられる内部空間

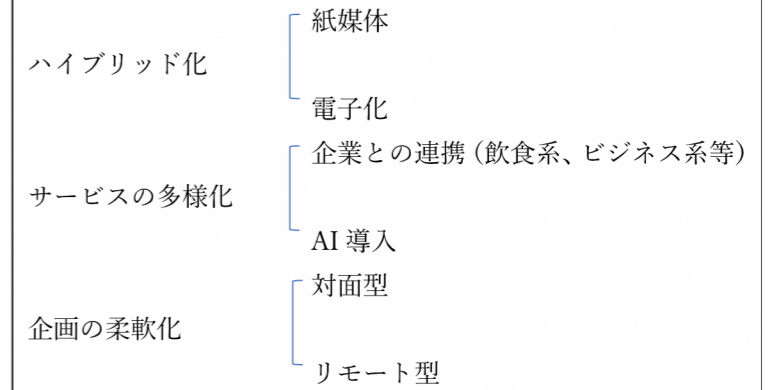
地上レベルでは東側からアプローチ  
(エントランスホールは下図イメージ)

北側は、東静岡駅改札と同レベルからアプローチ (イメージ図中央部より上層部で連結) 次世代へとつながるイメージをここに示している - このアプローチ部分には両側に新刊本や情報コーナーを設置)

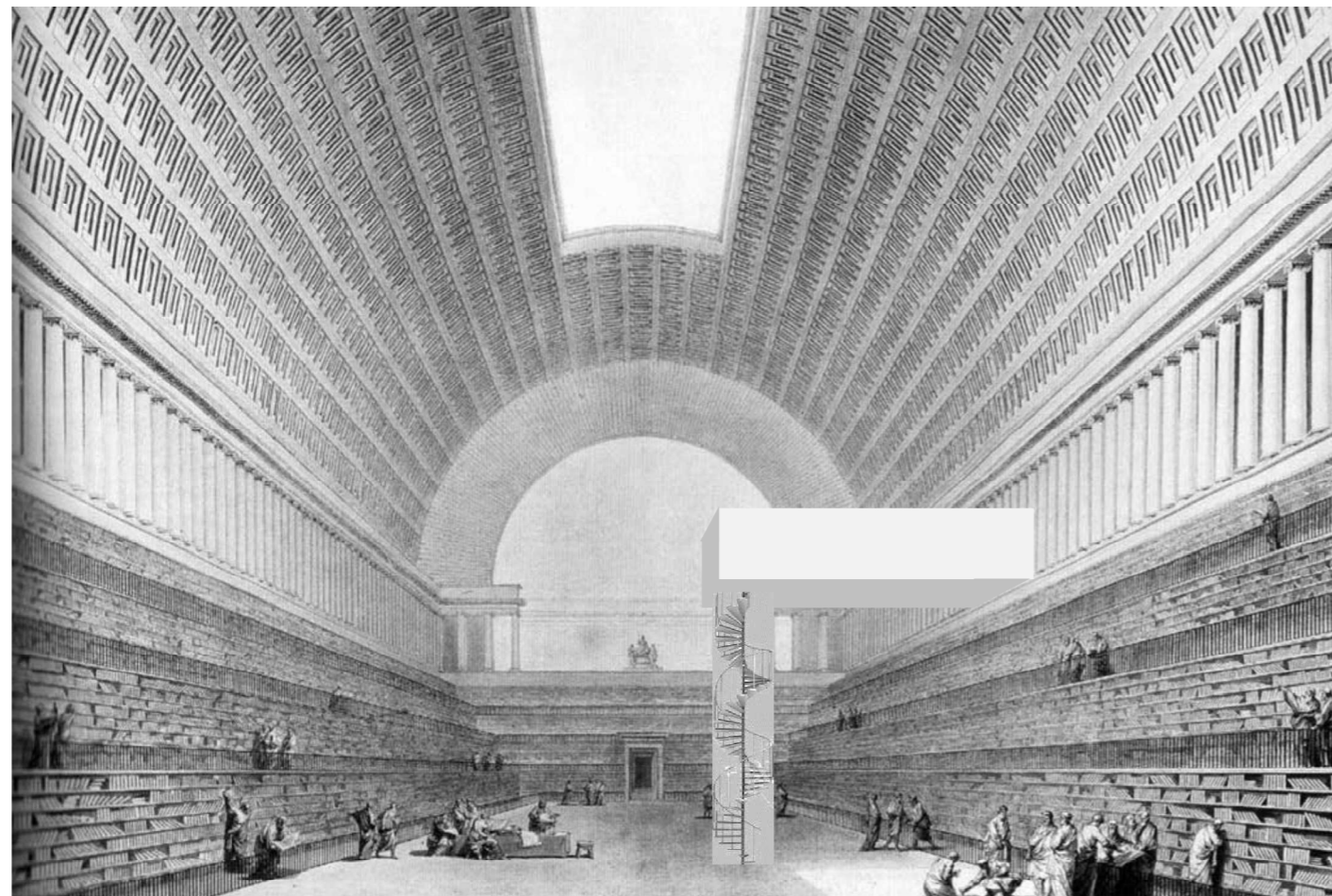
「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代にあって、書籍の電子化や AI 導入によるサービスの変化は仕方がない。図書館としてのサービスの多様化も求められる。しかし、人と人の近接を避けることばかりが先行するのではなく、周囲への配慮をしつつ図書館ならではの過去の習慣 (読み聞かせ、お話し会など) も残したい。

「人間中心の社会」に向かっている現在、人と人がかかわる場面や世代間がつながる空間としての「次世代につながる図書館」が求められる。

## 「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の時代の図書館像

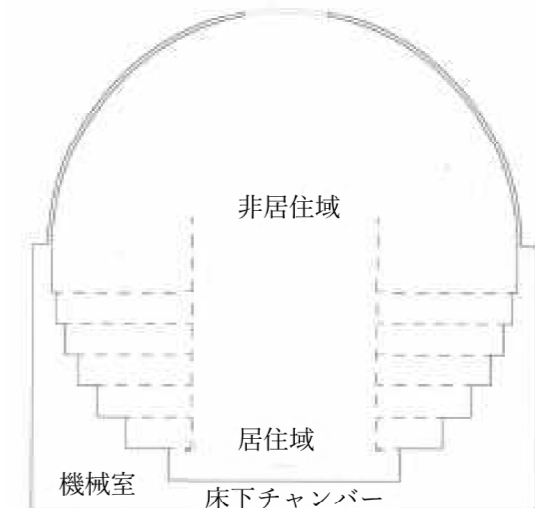


大空間は下記空調・換気方式によって快適性を保障している



イメージ図：エティエンヌ・ルイ・ブーレーの王立図書館再建案

## トップライト



## 換気システムのイメージ

置換換気により床下から緩やかな気流を吹き出し居住域の快適性を確保

## 参考資料

- フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』(エティエンヌ・ルイ・ブーレー)
- 文部科学省ホームページ「社会の変化と図書館の現状」
- [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

# 無料講座

(例) 言語

学びたい言語を手軽に学べる!



ビジネスで  
使いたい社会人

→ 英語 etc...



休暇で旅行を  
楽しみたい人

→ 中国語 etc...



韓流アイドル好きの  
中・高生

→ ハングル語 etc...

## 長期休暇課題サポート

教員を目指す  
大学生

→ 小・中・高生



9:00 ~ 16:00  
時間の制限なし。

目的に合わせて自由な時間に

- ★ 1問だけ教わりたい。★ 習い事と調整できる。
- ★ 親が家に居ない間。★ 採点サポート

自分なりの  
図書館の  
楽しみ方

配信でたくさんの人に

1. 伊豆等遠い人向け配信。  
どこでも、いつでも受講できる。

2. 料理、DIY、メイクを  
ブログから学べる動画を配信

3. 県内大学紹介動画

4. SNSを使ったPR動画の配信。  
(図書館から見える夜景をBGMにのせて)

名称を変える

〇〇図書館 → かたり

短い、簡単 → 覚えやすい、楽しみやすい

提案 →

**NEW**

Next Emotions World

— 新世代のイモい世界 —